

令和6年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立 宮前小学校）

学校番号 071

【様式】

目指す学校像	『笑顔あふれる宮前小』		
重点目標	1 「真の学力」の育成…学校課題研修の充実 ICTを活用した学びの推進 2 豊かな心、健やかな体づくり…あいさつの励行 事故防止に努め、安心・安全な教育環境の整備 3 地域とともにある学校づくり…家庭・地域と絆を深める学校づくりの推進 情報発信の充実 4 教職員の資質向上…高学年教科担任制の実施 校内研修の充実		

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和7年2月5日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	＜現状＞ ①R5全国学調及び市学調「国語・算数の勉強は好きだ。」の質問項目において、R4と比較し肯定的な回答の割合は国語で全国・市ともに増加、算数は全国ではほぼ同じ、市では増加した。 ②日々の授業における「宮前スタイル」が教職員に定着してきた。内容を共有して授業実践に生かしている。 ＜課題＞ ○個別最適な学びからさらに協働的な学びにつながる主体的・対話的で深い学びを意識した研究をすすめて「宮前スタイル」を発展させていく。 ○R6全国学調及び市学調の国語・算数の自校結果を前年度より向上させる。	・学校課題研修の充実と「宮前スタイル」の発展	・個別最適な学びの観点を日々の授業に取り入れ、個に応じた支援を重視する。 ・学校課題研究の活動を通して、「宮前スタイル」にのっとった授業実践を行う。	① R6全国学調及び市学調の国語・算数の「知識・技能」の自校結果を、R5の値より向上させることができたか。 ② 各教科における「宮前スタイル」を全教職員が日々の授業で実践できたか。	① R6全国学調及び市学調の国語・算数の「知識・技能」の自校結果は、全国学調では国語 6.7p 減少、算数 3.7p 増加。市学調では国語 10.2p 増加、算数 0.3p 増加であった。 ② 各教科部の組織構成（国語、社会、算数、理科）で宮前スタイルを取り入れた授業実践と教職員間での参観を行った。	A	・個別最適な学びの観点を授業に取り入れることで、学習意欲の向上はみられた。学校課題研修を通して「宮前スタイル」が教職員に定着している。授業を研究し公開して教職員同士が積極的に情報を提供し共有してさらなる発展を目指す。		・学習状況調査の結果だけを見ず、児童の学習に対する意欲や理解度が上がっていることに着目したい。
		・「個別最適な学び」から「協働的な学び」の観点を授業に取り入れる。	・協働的な学びの観点を日々の授業に取り入れ、課題解決の際のグループ活動を意欲的に取り入れる。 ・研究委嘱を受けている研究発表会に向けて、事前研究授業、指導案検討、研究協議を行う。	① R6全国学調及び市学調の国語・算数の「思考・判断・表現」の自校結果を、R5の値より向上させることができたか。 ② ICTを活用した自校アンケートにより、理論に沿った研究授業、研究協議ができたか。	① R6全国学調及び市学調の国語・算数の「思考・判断・表現」の自校結果は、全国学調では国語 2.3p 増加、算数 4.0p 減少。市学調では国語 5.1p 減少、算数 1.7p 減少であった。 ② ICTを活用した自校アンケートでは、食育現状把握のための4段階の選択制アンケートを実施し、変容を把握した。	A	・協働的な学びの観点を授業に取り入れることで、意欲的にグループ活動をしている。課題解決の場を自分で選択させる機会を多く取り入れ、ICTを効果的に活用し振り返りを行い、グループやペアの活動により思考して児童自身の能力を引き出す指導をする。		
2	＜現状＞ ①R5学校自己評価「あいさつの励行」に関する質問項目において、肯定的な回答の割合は、8割以上の肯定的回答を得ることができた。 ②R5学校自己評価「安心・安全」に関する質問項目において、肯定的な回答をした児童の割合は8割以上の肯定的回答を得ることができた。 ＜課題＞ ○「あいさつの励行」は、特別活動部を中心に継続して地域と連携して取り組んでいく。 ○安全指導の充実・徹底を図り、児童に「自分の身は自分で守る」意識をもたせるとともに、保護者、地域と連携しての見守り活動の一層の強化に取り組んでいく。	・地域と連携した気持ちのよいあいさつの励行	・各学年・学級におけるあいさつの励行に努める。 ・あいさつキャンペーンや集会など、特別活動の充実を図る。 ・地域と連携してのあいさつ運動を各学期1回以上実施する。	① R6学校自己評価「あいさつができる」の質問に肯定的な回答をする児童・保護者・教職員・地域の方々の割合がR5より増えたか。 ② 地域と連携してのあいさつ運動を各学期1回以上実施できたか。	① R6学校自己評価「あいさつができる」の質問に肯定的な回答をする割合は、児童±0p・保護者 2.6p 減・教職員 3p 減・地域±0pであった。 ② 地域の中学校と連携してあいさつ運動を2回実施した。	B	・あいさつキャンペーンは兄弟学級として異学年での交流がみられた。次年度は地域の方やPTAの協力を得ながら、あいさつ運動を行うよう計画する。		・「あいさつ運動」は地域の人とともに正門に立つて行うだけでなく、学校外の道々において、地域の人が児童に声をかけながらあいさつをしていくことで、地域全体で子どもたちを見守るようになるとうい。
		・児童の安全を守る登校指導と安全点検等の改善	・月1回の安全点検・登校指導について、実施方法や点検項目の見直しを図る。 ・引き渡し訓練、一斉下校等の実施について、効果検証及び改善に向けた取組の充実を図る。	① R6学校自己評価における「安心・安全」に関する質問に肯定的な回答をする児童の割合が R5 より増えたか。 ② 安全点検や登校指導等の定期的な実施ができたか。	① R6学校自己評価における「安心・安全」に関する質問に肯定的な回答をする児童の割合は0.2p 減であった。 ② 安全点検12回、登校指導10回の定期的な実施に加えて危険個所の見回りと工事個所における交通整理を行った。	A	・定期的な点検を怠ることなく、老朽化を意識して日々修繕を行い、安全、安心な環境を維持できるようにする。 ・地域、家庭と連携して通学路に影響する事項を確認して変更した。		
3	＜現状＞ ①R5学校自己評価「児童の成長に関心が高まった」の質問項目において、保護者・地域の方々の8割以上が肯定的な回答をした。 ③R5市学調「地域とのかかわり等」に肯定的な回答をした児童の割合はR4と比較し増加した。 ③授業参観や学校公開、学校だより、学校ホームページを通して、保護者や地域の方々に学校の教育活動に関心をもっていただくことができた。 ＜課題＞ ○創立50周年記念事業に向けて、実行委員会を中心にPTAや地域と連携して取り組む。 ○環境整備や校内美化を、地域、家庭と協働してきれいな学校を目指す。	・創立50周年記念実行委員会において、地域やPTAと連携	・学校・家庭・地域が連携、協力して創立50周年記念事業を展開する。 ・地域とのかかわりを重視し、すすんで授業に取り入れ、実践する。	① 式典、記念誌の発行等を通して、学校・家庭・地域が連携、協力して創立50周年記念事業を実施することができたか。 ② R6市学調「地域とのかかわり等」に肯定的な回答をした児童の割合が8割以上になったか。	① 50周年記念事業として運動会、コンサート、式典等を、実行委員をはじめ地域や保護者とともに協働して実施した。 ② （市学調結果は後日）	A	・50周年行事では、地域、家庭と協力して行事を行うことができた。50年のあゆみを冊子にまとめて発行、地域学習の一環としての冊子の活用をしていきたい。 (市学調結果は後日)		・50周年行事を計画し、学校・地域・家庭が一元となってお祝いすることで、より学校・地域・家庭が結びつくことができた。NHK巡回ラジオ体操に応募したものの落選したが、これをよい機会とし、より一層の協働体制を築いていけるとよい。
		・学校運営協議会において、目指す児童の姿や地域との連携の充実について共有	・学校運営協議会開催の際に、可能な範囲で、学校内を見ていただく機会を設ける。 ・きれいな学校づくりについて、学校運営協議会での熟議として年間を通して話し合っていく。	① 学校運営協議会において、児童の姿や活動の様子を3回実際に見ていただく。 ② きれいな学校づくりとして、地域、家庭と協力することができたか。	① 学校運営協議会で児童の姿や活動の様子を3回、学校公開日や運動会、周年行事においては地域や保護者に学校内の活動を見ていただいた。 ② 保護者クリーン活動による2回の清掃、おやじの会の保護者と児童による築山の塗装や畑の整地、野菜の栽培を通して、協力して緑化美化に努めた。	A	・実際の活動の公開や参観を継続し、地域全体で児童をはぐくんでいく。 ・学校、家庭、地域が一体となり、協力を得ながら地域連携事業を考えていく。		
4	＜現状＞ ①R5学校自己評価「教育課程・学習指導」における教職員の肯定的な回答は、いずれも9割以上に達している。 ②R5学校自己評価「高学年教科担任制は、年間を通して円滑に実施されている」の質問項目において、97%の教職員が肯定的な回答をした。 ＜課題＞ ○「学校における食育」の充実と「真の学力」をはぐくむ学習指導の充実 ○高学年教科担任制の更なる充実に向けて、教職員の指導力向上に関する取組を強化していく。	・各教科、各学年における「食育」に関する教育活動の充実を図る	・「さ・い・た・ま・し」の子の育成として、それぞれの部に分かれて、計画的な食育推進を行う。	① R6学校自己評価「教育課程・学習指導」の質問項目における肯定的な回答をした教職員の割合が8割以上になったか。	① R6学校自己評価「教育課程・学習指導」の質問項目における肯定的な回答をした教職員の割合は、88.9pであった。「食育」の研究を通して、令和6年度の文部科学大臣表彰を受賞した。	A	・「さ・い・た・ま・し」の子の育成として、それぞれの部に分かれた計画的な食育推進では、1月の研究発表会においてその成果を冊子にまとめ実践を発表することができた。		・授業や行事の参観を通して、子どもたちの学習や活動の様子を知ることができた。今後はいろいろな行事を公開し地域の人や学校運営委員が見に行くような体制づくりを整えていく。
		・高学年教科担任制の円滑な実施	・昨年度の実績を生かし、高学年教科担任制を生かした学力向上を目指す。	② R6学校自己評価「高学年教科担任制は、年間を通して円滑に実施されている」の質問項目における肯定的な回答をした教職員の割合が8割以上になったか。	② R6学校自己評価「高学年教科担任制は、年間を通して円滑に実施されている」の質問項目における肯定的な回答をした教職員の割合は、100pであり高学年教科担任制は定着した。	A	・教育課程・学習指導については教職員がチームとして行い高学年教科担任制が定着し、児童の意欲や関心を高めるような授業改善が行われている。		